

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470700549
法人名	社会福祉法人 太陽の里
事業所名	グループホーム まごころ
所在地 (電話番号)	松阪市垣鼻町1638-52 (電話) 0598-25-6555
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 10 月 10 日(水)

【情報提供票より】 (H19年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 11人, 非常勤 8人, 常勤換算	17.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(9 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	7 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	85 歳	最低 77 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大谷医院 村田歯科クリニック 清水医院 松阪市民病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所周辺は、県立高校、小、中学校、(高級)住宅街が広がり、歯科医院、眼科医院などがある環境の良い文教地区内に位置している。母体の福祉法人の福祉施設とは離れており、グループホーム単独の施設である。道路路面は高い木の植え込みがされている。このグループホームは建設時から地元住民の反発があり、軋轢があったものの、開設後4年以上が経過し、事業所の地道な取り組みや地元自治会長などの理解、支援を得て、ようやく認知がされてきている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回で指摘を受けた改善点、『市町村との関わり』は、市から教を請う姿勢でホーム長が積極的に市へ出向き関係づくりを構築している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組み、気づきから改善へとつながっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	認知症の理解、事業所の理念等の説明から始まり、緊急時の協力を関係者へお願いした。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の一番の不安は、事業所を出されたらというのが強い。利用者の高齢化をもふまえ、今後医療連携体制を強化し、希望のある人には重度化、終末に向けた看取りの方針をしていく意向である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の防災訓練に利用者、職員とも参加するなど、地域の住民の方との関係作りには特に心血を注いでいる。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	まごころ認知症ケア5つの基本理念と運営方針のもと、人として尊厳をもったその人らしい生活を支えていくことを理念として掲げている。	○	地域密着型サービスを意識した理念を検討されるよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の申し送り時に理念を唱和し、また月に1回のカンファレンス会議において、ホーム長から理念が話されて、理念に基づいた介護の実践を目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初から自治会へ加入し、自治会の役員として会合に出席している。回覧板も回ってくる。自治会主催の地域ぐるみの防災訓練に利用者、職員ともに参加している。また、近くの高校、中学校の生徒の福祉教育の研修の受け入れに協力している。	○	日常的なお付き合い(例えばサロンの場など)の取り組みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回、外部評価で指摘されたところは、検討がされ改善へと取り組みされている。今回の自己評価は各ユニットごと全職員で取り組み、1つずつ点検をすることで見直すきっかけになり、気づき、改善へと話し合いがされた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に1回開催され、メンバーは市から職員が2名、地域包括センター、自治会長、利用者代表、家族代表、職員で構成されている。議事録もとられ、内容はホームたよりに掲載されている。	○	会議のメンバーに柔軟性をもたせ、幅広くメンバーになってもらい、認知症の理解を深めるとともにテーマも身近な関連したものを意識して取り入れる工夫を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	わからないことはいつも市の担当者に聞く姿勢で、市へ出向くように心がけている。生活保護受給の利用者があり、定期的に市の担当者の訪問がある。19年度、市のいきいきサポート講座にホーム長が講師を依頼されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、「ホーム便り」、担当職員が書いた「利用者の近況の報告」、レントを添付した「金銭出納記録」が請求書とともに家族へ送付されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表が参加し、意見を聞いている。また面会時や介護計画の見直しの時に家族と面談し、思いを聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わるとダメージはあるが、新しい職員には先ず利用者に寄り添い、話を聞き信頼関係を築くことから始めるよう指示している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の通知があると、順次職命で研修に参加している。研修後はレポートを提出し、カンファレンスの場で発表している。また、月に1回のカンファレンスは勉強会の場でもあり、順番に職員が担当になり、テーマを決めて資料を集め、その時の座長となって勉強会がされている。	○	職員ごとの育成計画を立てられてるよう提案する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会、松阪市グループホーム連絡協議会に加入している。情報交換の場でもあり、会議には職員が順番に参加している。	○	松阪市グループホーム連絡協議会の運営を推進するリーダーとして期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所への住み替えで不安の利用者には、家族から電話をしてもらったり面会に頻繁に来てもらうなど、慣れるまでの協力をお願いし、職員も寄り添うケアで安心してもらう、事業所の生活に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴などから得意なこと、好きなことなど見出し、楽しくやるのを第一目標にサポートしている。レクリエーションやリハビリ体操、脳トレ等々職員共に楽しんでいる。暖簾やランチョンマットづくりなど利用者の手作りの物が活用されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や動作などから気づくことが多い。利用者一人ひとりに職員の担当が決められて、担当者は特にしっかり把握に努め、カンファレンスで検討がされる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ケアでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の24時間アセスメントシートを活用し、担当職員が記入して、カンファレンスで話し合わせ、本人、家族の意見も聞いて介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しがされている。気になる人は、1ヶ月もしくは2ヶ月に1回、見直しがされている。作成した介護計画はその都度、コピーして家族へ郵送している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援やふるさと訪問で生まれ育った所や生活していた所の付近まで車でドライブしてお連れするなど柔軟な対応をしている。	○	事業所の持つ機能や認知症ケアのプロの職員を活かせる地域での役割のあり方の検討を期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には必ずホーム長が挨拶に出向いている。通院支援をしており、受診には職員が立会っている。医師の所見は家族へ報告がされている。協力医とはいつでも相談可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の高齢化などから、家族の心配が寄せられ、医療連携体制を整え、重度化、終末に対するケアを事業所で取り組んで行く方針が母体の法人で同意を得ている。	○	出来るだけ早い時期に、本人、家族への説明をしていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に相手(利用者)の気持ちに立って、言葉遣いなど十分配慮するように、申し送り時などで徹底を図っている。居室のドアにはガラス窓があるが、プライバシーを守るよう、手作りの隠しカーテンがそれぞれ施されている。各居室は洗面台が設備されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	様子をキャッチして押し付けることをしないよう、いつも臨機応変の心がけをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には食材の買い物に利用者が行くこともあり、利用者の作った野菜が食材になることもある。野菜の皮むきや、味付けなどは利用者の出番である。食事は同じテーブルで利用者、職員ともに食べ、見守りがされている。後片付けも利用者の役割があり、食器洗いなどそれぞれの持ち場で活躍されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施し、朝9時半以降、16時までいつでも入れる。風呂へはゆっくり入ってもらうようにしており、時間も決めていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度、片付け、買い物、洗濯物たたみなどそれぞれ得意なことから役割をもってもらい、張りを見出す支援がされている。外食や買い物の後でコーヒーを飲みに行くなど楽しみになっている。もうすぐ、みかん狩りが計画されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、リハビリ通院、足湯に行くなどなるべく外へ出るように心がけている。2つのユニットは中庭を通して自由に行き来ができ、利用者同士で交流をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当初は各ユニットの入り口に電子パネルの鍵が施錠されていたが、評価での指摘で「鍵をかけること」について職員間で話し合いを持ち、改善されて、現在は日中鍵はかけられていない。ドアもオープンにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の協力を得て、消火、避難、通報等訓練をしている。自治会主催の地区ぐるみの防災訓練にも参加をしている。スプリンクラーの設置も法人で検討がされている。	○	夜間での訓練の実施をされるようお願いする。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が作っているのですが、法人の管理栄養士に見てもらい、指導助言を受けてバランスを考慮している。食べる量は盛り付け時に配慮している。水分は十分補給できるよう、コーヒーや健康飲料、お茶等々いつでも用意がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プランターで花づくりしたり、庭に季節の野菜を作るなど家庭的な雰囲気作りである。廊下は広くゆったりしており、中庭にはベンチが置かれ、居間は畳のコーナーが設えてあり、どこでも好きな所で過ごせる。窓から明るい光が入り、気になる臭いはない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や、整理ダンス、テレビ等々思い思いの物が置かれている。居室はフローリングで施され、介護用ベットが整えてあるが、畳での生活を希望される方には、希望に応じた対応もされている。なかには趣味の三味線を持っている方があった。		